



安曇野日和

連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

平成26年度となり、早数ヶ月を経過しております。新年度を迎える前に2年に1度の診療報酬改定と数年ぶりの精神保健福祉法の改正が重なりました。

特に法律の改正においては医療保護入院の保護者制度の見直しと退院支援に向けての取り組みを強化することが一体化されております。昨年度末には法律改正について研修会を実施いたしましたが、その時点では具体的な情報に乏しいため、不確実な印象は拭えませんでした。

果たして新年度となり新たなルールで治療を行うこととなりましたが、これまで通りのやり方ではカンファレンスや退院支援委員会などの開催が多くなるため日常業務に支障を来たしてまいります。そのため個々の患者さんの状態をこれまで以上にしっかりと把握し、退院支援に向けて適度なカンファレンス、退院支援委員会の開催を実施していく必要があります。当院は精神科療養病床及び認知症介護療養病床であるため医療保護入院の患者さんが多いことから、当面は模索する日々が続きそうです。

加えて、診療報酬の改定に伴って精神科療養病床の担当医制度の取り決めが厳しくなりました。これまでは厚生局への申請事項として各病棟に担当医を置いていたのですが、新年度から担当医は担当病棟以外の業務を週に2日以内で対応するようにと定められたのです。これにより入院基本料が増えているので、このルールを守らなければ基本料を請求できなくなり、当院にとって死活問題になります。従って主治医の交代や患者さんの病棟移動等により適正な分配となるように対応しております。

ここまで一気に変わるということは過去に経験したことがありません。こういう時にこそ職員一丸となって取り組めるのが当院の強みであると思っています。皆で協力してこの局面を乗り越えましょう。

精神科病棟だより

1-3病棟レクリエーション

平成26年5月28日（水）に和菓子のうきしまロール作りと紙飛行機飛ばし大会を開催しました。

うきしまロールは、白あんと卵黄を混ぜた生地泡だてた卵白を加え、蒸した後、あんこを巻いた和菓子です。ホイッパーやすりこぎで材料を混ぜる作業を担当した患者さんはとても楽しそうに笑顔で作っていました。作ったうきしまロールは、午後のおやつとして患者さんに提供され、おいしそうに召し上がっていました。



紙飛行機飛ばしでは、患者さん各々が紙飛行機を作り、ペンで自由に絵を描きました。完成した紙飛行機はどれも彩り良く個性的でした。その後、体育館で飛ばした情景は、とてもきれいなものでした。

患者さんは子どもの頃を思い出し、真剣な顔で紙飛行機を作り、楽しそうに飛ばしていました。飛行距離上位3名が表彰され、1位の方は11m67cmの大記録でした。



あまり馴染みがない和菓子作りを経験したり、いつもは病棟レクに参加されない患者さんも紙飛行機飛ばしに参加することができ、とても充実した病棟レクを開催することができました。

2-3病棟での作業療法活動

2-3病棟では、充実した療養生活を送ることができるよう、日中は個人作業療法（OT）・カラオケ・運動などのプログラムの中から、患者さんの状態に合わせて参加できるよう工夫をしています。

週に2回ある午前中の個人OTでは、塗り絵、貼り絵や裁縫（つるし飾り）など、患者さん一人ひとりが個別に作業に取り組んでいます。また、数名の患者さんが細かい作業を積み重ね、1カ月ごと、季節行事に合わせたデザインのつるし飾りを作っています。できあがったつるし飾りは、病棟内の他、玄関のロビーにも飾り、来院者の目を楽しませてくれています。最近では、病棟のお風呂場の入り口で使用するのれんを作ってください、重宝しています。



じゃんけんゲーム

今年度から新しく1-3・2-3病棟合同で行う、『元気はつらつグループ』というプログラムを始めました。このプログラムは人と交流し、ルールを共有することにより、仲間との一体感・心地よさを体験する機会を得ることを目的としています。体育館を使用し、これまでに、輪くぐり・物送りリレー・いけにえドッジボールなど幅広い種目を行っています。普段、動きの少ない患者さんが、自分から動こうとしている姿が多く見られ、ゲームを通して患者さんの新たな一面が発見できます。

今後も積極的に声かけを行い、多くの方が参加できるよう努めていきます。

介護療養病棟だより

患者さんの安全を守る

看護師 大沢 孝子

いくら気を付けていても起きてしまうのが転倒・転落事故です。事故は、私達病棟スタッフの責任です。「常に目を離さない」ことができればいいのですが、それは現実的に難しいことです。危険防止のため、様々なセンサーを使っていますが、それで、事故が起きないわけではありません。大きな事故が起きないように、神経を使い、注意を怠らないようにしています。

夜間は、患者さんと関わる時間が短いため、患者さんのサインを見逃しやすく、事故につながる危険性を感じています。夜になると活動的になる患者さんは、自分の行為が危険かどうか正しく判断することが難しく、見守りの時間が多くなります。そこで、日頃から患者さんとのコミュニケーションを大切に、スタッフ間の情報交換を密に行い、見回り頻度を高める対策をとっています。

また、患者さんの日頃の様子から、昼間に色々な体験をすると比較的、落ち着いて眠れることがわかりました。そこで、紙芝居・フラワーアレンジメント・体操などの病棟内で行う活動と、花壇・畑作業・散歩・調理などの病棟外で行う活動を中心に、楽しい刺激を与えられ夜間ゆっくり眠って頂ける方法を実践しています。

認知症病棟の看護師として、どのようなケアができるのかを常に考えています。患者さんの笑顔に救われながら。

お花見レクリエーション開催

平成26年4月26日（土）に、『春を感じながら演奏会を楽しむ』お花見レクが開催されました。お花見レクは、2部構成になっており、午前中に第1部、お昼ごはんをはさんで第2部を行いました。

第1部は、岸川Drによる篠笛の演奏会を当院の駐車場にて行い、さくらさくら・千の風になって等を演奏しました。患者さんは、青空の下たくさんの桜の花に囲まれた会場で奏でられる篠笛の音を楽しんでいるようでした。



お花見弁当(常食)

お昼ごはんは、食事療養部手作りのお花見弁当に参加されたご家族、スタッフと一緒に食べました。お花見レクには、20名のご家族に参加をしていただき、ご家族と患者さん、そしてスタッフとの良いコミュニケーションの場となりました。

第2部は、病棟のホールにてスタッフによるピアノ・リコーダー・キーボードの演奏会を行いました。スタッフの他、音楽療法を学んでいる留学生のバイオリン演奏と患者さんのご家族によるホルン演奏も行われました。患者さんは、音に合わせてリズムをとったり、歌を口ずさんだりしていました。

患者さんに楽しんでいただけるよう練習してきたかいもあり、にぎやかで楽しいお花見レクを開催することができました。

グループホーム 小倉ホーム 開所

ミサトピア小倉病院の近くに、障がい者総合支援法に基づく、共同生活援助事業のグループホーム「小倉ホーム」（定員18名）を開所しました。城西医療財団の精神障がい者のグループホームとしては6施設目となります。木造2階建て、建物面積700㎡、職員は、世話人2名、管理人・サービス管理責任者・生活支援員2名の計6名体制です。

小倉ホームは、精神に障がいをお持ちの方で、「地域で生活したいけど1人暮らしをするには少し自信がない」「家庭や住宅事情によって住む場所に困っている」など、地域での生活を希望しているが、なかなかうまくいかない方々が自立した生活を送れるように支援を行う共同住宅です。

日中は、デイケアや作業所への通所、就労支援事業を利用しながら、一般の方たちと同じような生活を送れます。医療面は、ミサトピア小倉醫院等、城西医療財団の系列病院でサポートを行います。



入所希望の方は、障がい支援区分の申請を市役所・役場で行っていただき、判定が1か2、または非該当の方・精神症状が安定している方・身の回りのことを自立してできる方・共同生活が可能の方が入居できます。

3LDKのアパートのような、タウンハウス形式の造りです。自然豊かな環境の中で自立した日常生活を送れるグループホームを目指していきます。

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 地域連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟150床・老人性認知症疾患療養病棟50床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私たちは治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103

長野県安曇野市三郷小倉6086-2

TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団

ミサトピア小倉病院

編集後記

新年度になり、精神保健福祉法の改正、グループホームの開所など、今まで経験したことがない業務を行うことは、大変なことだと痛感している毎日です。休日に、身体を休めることも大事ですが、多忙な日々ではあっても、外へ出て身体を動かすことでストレス解消になり、明日への仕事に繋がるものだとして、これからも身体を動かしていきます。

広報委員長 樋口 孝

表紙写真

写真タイトル：「 八重桜 （ミサトピア小倉病院はど〜こだ？） 」 撮影者： 樋口 孝